

山口森林管理事務所

担当者
森林技術指導官：稲葉昭治
TEL：050-3160-6156

- 山口県の林野面積は439千haで、県土面積の611千haの72%を占め、林野率は全国平均67%を上回っています。また、この森林の84%は個人や企業等が所有している私有林で、国有林は官行造林を含め3%（12千ha）あります。
私有林の樹種別面積構成は、スギ、ヒノキ、マツ等の針葉樹が55%、広葉樹が41%、竹林等が3%であり、人工林率は44%となっています。また、人工林（スギ、ヒノキ）の齢級構成は、保育間伐等の森林整備を必要とする7齢級（35年生）以下の森林が3割を占めていますが、一方で、人工林の齢級別蓄積量は、10～12齢級（46～60年生）の林分が5割を占めており、木材等生産機能と地球温暖化防止機能の発揮の観点からも、これらの成熟した森林資源を伐採し、利用した上で跡地に再造林を行う「若返り」が求められています。
県内の国有林率はわずか3%と低いながら、東大寺再建材の「滑マツ」の供給地として知られる滑山国有林や名勝「岩国錦帯橋」の借景林である城山国有林、瀬戸内海に位置する風光明媚な笠戸島国有林等は、水源涵養機能等のもとより、保健・文化・教育的な利用の場として多面的な機能を発揮しています。
- 山口県との地域林政連絡会議では、平成25年度の地域課題の解決に向けた取組の総括を行うとともに、主伐・再造林の増加に伴う苗木の需給体制の確保、コンテナ苗を使用した伐採と植付の一括発注の取組について意見交換を行いました。
- 国有林が所在する市町の地域課題や共通課題を把握するため、各種会議やアンケート等を活用しながら幅広く情報収集を行いました。これらの結果を踏まえ、平成27年度に課題解決に向けて連携した取組を展開していくこととしています。



(山口県との地域林政連絡会議の様子)

低コスト造林の推進

【課題1】 私有林へのコンテナ苗の普及（継続）

【取組状況】

- 滑山国有林において、伐採と植付の一括発注による契約を実施。
- コンテナ苗の供給について、山口県、広島県の種苗協同組合と連絡・調整を実施。
- 滑山国有林の更新箇所において、コンテナ苗を積極的に植栽しており、平成26年度から山口県産コンテナ苗を導入。
- 滑山国有林の低コスト造林試験地において、生長量調査を実施。

【成果と今後の課題】

- 県内産スギコンテナ苗の供給に寄与。
- 伐採と植付の一括発注により、低コスト造林を実施。今後、一括発注による経費削減効果の検証を予定。
- 普通苗とコンテナ苗の生長量データを蓄積し、今後、コンテナ苗の優位性等について情報発信を検討。



(滑山国有林の主伐箇所)



(生長量調査の様子)

【課題2】 市町村への主伐・再造林の契約発注に係るノウハウの指導（新規）

【取組状況】

- 国有林野等所在市町長協議会において、伐採と植付の一括発注に係る取組について情報発信を実施。

【成果と今後の課題】

- 伐採と植付の一括発注によるコスト削減について、各市町へ関心を持ってもらうことができ、今後、各市町の発注事務担当者との情報の共有を検討。



(国有林野等所在市町長協議会の様子)